

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390500084		
法人名	株式会社 アリスジャパン		
事業所名	グループホーム菊の里 (アリス館)		
所在地	笠岡市吉田字山中39番1		
自己評価作成日	平成23年11月7日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>今年4月に新しく開設いたしました。 きれいで快適で家庭的な環境のもとで、楽しく、ご自分のペースで、利用者さんがその有する能力に応じて自立した日常生活を営むことを支援するとともに高齢者の福祉の増進を図ります。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ハートバード		
所在地	岡山県倉敷市阿知1-7-2-803 倉敷市くらしきベンチャーオフィス7号室		
訪問調査日	平成23年11月29日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>この地域で10年前からヘルパーステーションやデイサービス等、各種介護サービスを提供していた母体法人が、「より福祉の充実した地区にしたい」という代表者の思いで、初めてのグループホームを開設した。 職員は「ひとりひとりの能力に応じて、できる限り自立した生活を支援する」という理念を共有し、日頃のケアにあたっている。経過表や排泄チェック表などがもっと使い易くなるよう、職員同士で検討して改善を重ねるなど、よりよいサービスを目指す意識が高い。利用者ごとに担当者を割り振ることで、きめの細かいケアができ、利用者や家族の多くが感謝の声を寄せている。開設後7ヶ月ながら、法人内の他の事業所と協力し、秋祭りの開催や、老人会での体操指導など、地域とのつながりを強めている。協力医が隣りにあり、連絡を密に取れるので、緊急時には昼夜を問わない支援が得られ、心強い。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念・基本方針を事務所に掲示し、毎朝の朝礼にて唱和をしてその理念を共有して実践につなげている。	法人の経営理念と基本方針を事務所に掲示し、毎朝唱和して、意識を高めている。「ひとりひとりのニーズに合った自立支援を目指す」の理念を実現しようと、職員は、利用者が自分のできることの支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議のメンバーに地域の民生委員さん・代表の方に入って頂き、民生委員さんもボランティアで訪問いただいている。	法人内の併設事業所と合同開催した秋祭りは、家族、保育園児、高校生や地域の人など100名近くの参加者で賑わった。また、老人会で体操の指導や認知症の講義を行うなど、事業所から地域に向いての活動も積極的である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「秋祭り」等の開催時に地域の方にも参加いただき交流することにより、少しでも理解を頂く一助としている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、地域の代表の方・民生委員さんにも参加いただき、入居者情報・活動状況等を報告、話し合いをして、サービスの向上にいかすようにする。	運営推進会議の開催は、まだ1回のみであるが、家族の参加が多く、意見を聞く場として活用された。市の職員は介護事業の現状などを話し、互いに情報が交換できる会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連携できていると思う。何かわからなかったらすぐに連絡をして、確認をしている。	市の担当者とは開設前の準備段階から連絡を密に取り、わからないことがあれば尋ねている。市の実地指導で人員配置の指摘があったが、担当者に相談して、素早く改善できた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間・早朝以外は施錠していない。どうしても必要性が生じたら、家族に説明をして期間を定め同意書にて確認上行う。	日中、玄関は開錠され、利用者の外に出たい気持ちや行動には、見守りと言葉がけで対応している。身体拘束はないが、万が一に備え、重要事項説明書等とは別に、「緊急やむを得ない身体拘束に関する説明書」を作成し、家族と共に検討できる体制が整えられている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	まだ全体での勉強会は開催していないが、今後勉強会を開催して、全職員の認識を上げるように努めます。		

グループホーム菊の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これから勉強していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解・納得をを図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今後、運営推進会議の開催をも含めて考えている。	家族等からは来訪時や電話で意見や要望を聞いている。意見箱には未だ声が寄せられたことはない。看取りに関する質問が多く出ているので、施設長が中心となり説明している。運営推進会議を今後も意見を聞く場として活かそうと考えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本部会議を受けて、毎月1回月例会を行なっている。	開所から半年以上経ち、ようやく落ち着いてきた。職員の意見を全て叶えるには至っていないが、管理者は日頃から職員の声に耳を傾け、また月例会では意見や提案を聞く機会を設けている。職員も気軽に伝えられると感じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の更衣室・休憩室が設置され、職員の職場環境には配慮してある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	井笠地域の職員を対象にした、研修が3ヶ月に1回位であり、職員の資質向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	笠岡市の集団指導で知り合った、同業者に色々尋ねたりはしている。		

グループホーム菊の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面接を行い、本人から要望や困っていることを聞きケラプランに反映して、入居者さんの信頼を早くえるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面接を行い、家族から要望や困っていることを聞きケラプランに反映して、入居者さんの信頼を早くえるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に面接を行い、家族から要望や困っていることを聞きケラプランに反映して、入居者さんの信頼を早くえるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	6ヶ月たちやっと、職員と入居者さんとのコミュニケーションが出来たように思う。今後もより暮らしを共にするもの同士の関係を築くよう努力する。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者さんの報告を密にして家族の方をまきこんで一緒に考え、対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者さんは、近所の方も多く家族が面会等で来られても知った入居者とお話されている。	近隣の利用者が比較的多く、家族以外に知り合いの訪問が度々ある。職員はまた来てもらえるような雰囲気作りを心がけて、訪問者に声をかけている。周囲に行事予定をお知らせし、関係の維持強化に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションが取りにくい入居者の方でも、職員が間に入り孤立しないよう他者との交流に努めている。		

グループホーム菊の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	まだ、契約が終了された方は、あまりありませんが、関係を断ち切らないよう連絡を取るつもりである。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の話をよく聞き、要望等を伺い、カンファレンスを行いプランを作成している。	担当者制により、自分が担当する利用者と同じく向き合う時間を取ることで、思いや希望をしっかりと捉えようとしている。他の職員やもう一方のユニットからの情報を合わせることで、さらに的確に把握し、利用者の希望が実現できるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に面接を行い、本人を取り巻く家族、利用しているサービス関係者から情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、9時と17時に体温と血圧と脈の測定をしている。体調の変化に注意して、変化があれば、家族に連絡し、受診等の対応をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人及び家族の意向を大切に、計画作成担当者により介護計画書を作成している。入居者さんに担当者を決めて、担当者を中心にモニタリングを行い、介護計画書につなげている。	家族の意向は、来訪時や利用者に変化があった時に電話して確認している。利用者の意向と担当職員のモニタリング結果を踏まえ、職員同士で意見を交換し、介護計画を作成している。しかし、明らかになった課題が、次回の計画に盛り込まれていないことがあった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌・経過記録にその日の身体状況、発言等を記録し状況把握が出来るようにしている。変化は申し送りやケアプランの見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	いろいろと制限はあるが、入居者の方の意向に対して、できる限りの対応は心掛けている。		

グループホーム菊の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	まず、地域資源をしっかりと把握し、十分に活用できるように努力する。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関との密接な関係があり、いつでも相談に応じてもらえる。急変に対してはすぐに往診をしていただき、適切な処置をしていただいている。	隣接する協力医療機関からは、事業所開設以来、労を惜しまない協力が得られ、夜間休日を問わず診察を受けてもらえる関係ができています。一方で、利用者の従来のかかりつけ医など他の医療機関の受診や往診にも対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が1名いるので、アリス館・カプト館いづれもで、日常の情報や気づきを伝えて相談し、協力医療機関との連携をとりやすくしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご本人の情報を病院関係者に伝えている。入院中の面会時に医師や看護師に様子を尋ねている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族・主治医との連携を図り、事業所としての対応の限度もお話し、安心して納得した終末期になるよう随時意思を確認しながら取り組んでいる。	利用者と家族には、重度化した際に事業所のできる最大限のケアについて、入居時に口頭で説明している。その後は利用者に体調の変化がある都度、家族に連絡している。急変時には、すぐに検査や入院ができるよう、協力医が地域の他の医療機関との連携体制を築いている。	重度化や終末期の対応について、早い段階から利用者や家族の意向を捉える一方、事業所の対応方針を十分に理解してもらえよう、重度化の方針や意思の確認などが文書化されることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変については、マニュアルを作成して、誰があたっても対応できるように話し合いをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練については、消防署からも来て貰い、入居者さんをも参加した訓練を実施している。	玄関には、外部の人間でも一目でわかる避難経路付きの大きな見取り図が掲示されている。消防計画書や自衛消防隊が整備され、避難訓練も実施されているが、訓練に参加できなかった職員への周知徹底には至っていない。	避難訓練時だけでなく、新人研修や職員会議等の機会に、消火器の位置や通報装置の操作方法などを全職員に周知徹底し、いつでも誰でも対応できるよう期待する。

グループホーム菊の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ使用時はドアを閉める、入室時はノックをする、声かけもプライドを傷つけない言葉を使う等考慮している。	利用者への親しみを込めた接し方を意識しながら、目線を合わせて、各人に応じた言葉がけをしている。また、法人内の事業所が持ち回りで担当する3ヶ月に1度の研修会や入社時に、プライバシーや接遇などを学んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	中には自分の希望や思いを表すことが出来ない方もありますが、こちらから提示をして、思いをわかるように努力します。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・入浴など、その方の体調により、決め付けず実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容の事業者を依頼して、希望者にしてもらってます。理容代は預り金から支払っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時にテーブルの上を拭いたり、下善の手伝いは入居者さんと一緒にしている。また、体調により嚥下が困難な時は、ミキサー食を作り食べ易いように対応している。	利用者がお盆拭きなどの準備や片付けを手伝っている。職員も一緒にテーブルを囲み、献立の話や世間話をして、和やかに食事ができるよう努めている。敷地内の菜園で、利用者と共に栽培し、収穫した野菜を食材にし、食生活の楽しみを広げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた食事づくりをしている。特に脱水に注意して、水分補給には気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行なっている。また、就寝前の入れ歯等のケアについても介助している。		

グループホーム菊の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレを使用している。夜間どうしてもの方にはポータブルトイレを利用してもらっていますが、1名だけです。	排泄チェック表で各人の排泄パターンを把握し、頃合いを見計らった誘導により、トイレでの排泄を促している。それが功を奏し、おむつの使用が減り、現在は1名のみで、布の下着の利用者が多い。夜間は体調によりポータブルトイレも使用する。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを記録し入居者さん一人ひとりの状態の把握に努めている。便秘の方には水分補給や牛乳をしっかり飲んでもらうようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には、2回/週の入浴を心掛けているが、その日の状況により入浴を勧めている。便失禁があれば、シャワー浴を行なっている。	入浴は週2回を基本としているが、利用者の気持ちや状態によって柔軟に対応している。シャワー浴にすることもある。希望により入浴剤を入れて、寛げる工夫をしている。浴槽が中央にあり、左右どちら側からも介助できる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者さんそれぞれのその日の体調に合わせた睡眠と休息をして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は1日分を個人別に分けてケースに保管している。特に食後に一人ひとりに手渡し、飲み込みを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物のたたみ・食事の膳の拭き、また真田組・貼り絵などそれぞれの好みで、実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は極力、外に出るようにしている。洗濯物の乾し・取り込み、畑の栽培、外の掃除なども一緒にしている。	天気の良い日は外に椅子を出して、ひなたぼっこをする。向かいのスーパーへの買い出しの同行や、洗濯物干しや取り込み、菜園の手入れや庭の掃除など、職員の見守りにより、屋外で過ごす時間を持てるようにしている。車での外出は少なく、利用者の希望には応じ切れていない。	人員配置や勤務時間を見直すと共に、利用者の歩行状態に合わせた計画を立てることで、外出が増えるよう、期待したい。

グループホーム菊の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、お金は預かっています。買い物希望の方には、お出しして一緒に近所のスーパーへ買い物に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望の人には電話をかけて頂く。手紙を書く方も居られるので、ポストまで一緒に出しに行ったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に地域の方が持って来てくださった菊の花を置いて、入居者さんにも観てもらっている。	家族や地域の方が持って来た花が玄関や居間に活けてある。毎日の清掃により清潔に保たれている。白木を主に明るい色調でまとめられた居間は、利用者のぬり絵や貼り絵などの作品が飾られている。暖かいと皮膚の痒みが出る利用者があるので、室温や湿度の調整に気をつけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置は気の合う、話の出来る人を配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族・本人の希望により、ベッドの位置を変更したりして、居室はなるべくその方の住みやすいように対応している。	利用者が自分の部屋だとわかりやすいように、居室ごとに床材や壁紙、カーテンを変えている。本人や家族の希望に応じて、外が見えるようにベッドを動かしたり、ベッドから畳と布団に変更するなど、居心地良く過ごせるよう、支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋がわからない方も居られるので、名前を大きく書いて貼っている。また、トイレも「便所」と別途表示している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390500084		
法人名	株式会社 アリスジャパン		
事業所名	グループホーム菊の里 (カプト館)		
所在地	笠岡市吉田字山中39番1		
自己評価作成日	平成23年11月7日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ハートバード		
所在地	岡山県倉敷市阿知1-7-2-803 倉敷市くらしきベンチャーオフィス7号室		
訪問調査日	平成23年11月29日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念・基本方針を事務所に掲示し、毎朝の朝礼にて唱和をしてその理念を共有して実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議のメンバーに地域の民生委員さん・代表の方に入って頂き、民生委員さんもボランティアで訪問いただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「秋祭り」等の開催時に地域の方にも参加いただき交流することにより、少しでも理解を頂く一助としている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、地域の代表の方・民生委員さんにも参加いただき、入居者情報・活動状況等を報告、話し合いをして、サービスの向上にいかすようにする。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	連携できていると思う。何かわからなかったらすぐに連絡をして、確認をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間・早朝以外は施錠していない。どうしても必要性が生じたら、家族に説明をして期間を定め同意書にて確認上行う。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	まだ全体での勉強会は開催していないが、今後勉強会を開催して、全職員の認識を上げるように努めます。		

グループホーム菊の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これから勉強していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今後、運営推進会議の開催をも含めて考えている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本部会議を受けて、毎月1回月例会を行なっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の更衣室・休憩室が設置され、職員の職場環境には配慮してある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	井笠地域の職員を対象にした、研修が3ヶ月に1回位であり、職員の資質向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	笠岡市の集団指導で知り合った、同業者に色々尋ねたりはしている。		

グループホーム菊の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面接を行い、本人から要望や困っていることを聞きケラプランに反映して、入居者さんの信頼を早くえるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面接を行い、家族から要望や困っていることを聞きケラプランに反映して、入居者さんの信頼を早くえるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に面接を行い、家族から要望や困っていることを聞きケラプランに反映して、入居者さんの信頼を早くえるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	6ヶ月たちやっと、職員と入居者さんとのコミュニケーションが出来たように思う。今後もより暮らしを共にするもの同士の関係を築くよう努力する。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者さんの報告を密にして家族の方をまきこんで一緒に考え、対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者さんは、近所の方も多く家族が面会等で来られても知った入居者とお話されてる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションが取りにくい入居者の方でも、職員が間に入り孤立しないよう他者との交流に努めている。		

グループホーム菊の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	まだ、契約が終了された方は、あまりありませんが、関係を断ち切らないよう連絡を取るつもりである。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の話をよく聞き、要望等を伺い、カンファレンスを行いプランを作成している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に面接を行い、本人を取り巻く家族、利用しているサービス関係者から情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、9時と17時に体温と血圧と脈の測定をしている。体調の変化に注意して、変化があれば、家族に連絡し、受診等の対応をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人及び家族の意向を大切に、計画作成担当者により介護計画書を作成している。入居者さんに担当者を決めて、担当者を中心にモニタリングを行い、介護計画書につなげている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌・経過記録にその日の身体状況、発言等を記録し状況把握が出来るようにしている。変化は申し送りや伝えケアプランの見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	いろいろと制限はあるが、入居者の方の意向に対して、できる限りの対応は心掛けている。		

グループホーム菊の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	まず、地域資源をしっかりと把握し、充分に活用できるように努力する。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関との密接な関係があり、いつでも相談に応じてもらえる。急変に対してはすぐに往診をしていただき、適切な処置をしていただいている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が1名いるので、アリス館・カプト館いづれもで、日常の情報や気づきを伝えて相談し、協力医療機関との連携をとりやすくしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご本人の情報を病院関係者に伝えている。入院中の面会時に医師や看護師に様子を尋ねている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族・主治医との連携を図り、事業所としての対応の限度もお話し、安心して納得した終末期になるよう随時意思を確認しながら取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変については、マニュアルを作成して、誰があたっても対応できるように話し合いをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練については、消防署からも来て貰い、入居者さんをも参加した訓練を実施している。		

グループホーム菊の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ使用時はドアを閉める、入室時はノックをする、声かけもプライドを傷つけない言葉を使う等考慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	中には自分の希望や思いを表すことが出来ない方もありますが、こちらから提示をして、思いをわかるように努力します。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・入浴など、その方の体調により、決め付けず実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容の事業者を依頼して、希望者にしてもらってます。理容代は預り金から支払っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時にテーブルの上を拭いたり、下善の手伝いは入居者さんと一緒にしている。また、体調により嚥下が困難な時は、ミキサー食を作り食べ易いように対応している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた食事づくりをしている。特に脱水に注意して、水分補給には気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行なっている。また、就寝前の入れ歯等のケアについても介助している。		

グループホーム菊の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレを使用している。夜間どうしてもの方にはポータブルトイレを利用してもらっていますが、1名だけです。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを記録し入居者さん一人ひとりの状態の把握に努めている。便秘の方には水分補給や牛乳をしっかり飲んでもらうようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には、2回/週の入浴を心掛けているが、その日の状況により入浴を勧めている。便失禁があれば、シャワー浴を行なっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者さんそれぞれのその日の体調に合わせた睡眠と休息をして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は1日分を個人別に分けてケースに保管している。特に食後に一人ひとりに手渡し、飲み込みを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物のたたみ・食事の膳の拭き、また真田組・貼り絵などそれぞれの好みで、実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は極力、外に出るようにしている。洗濯物の乾し・取り込み、畑の栽培、外の掃除なども一緒にしている。		

グループホーム菊の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、お金は預かっています。買い物希望の方には、お出しして一緒に近所のスーパーへ買い物に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望の人には電話をかけて頂く。手紙を書く方も居られるので、ポストまで一緒に出しに行ったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に地域の方が持って来てくださった菊の花を置いて、入居者さんにも観てもらっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置は気の合う、話の出来る人を配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族・本人の希望により、ベッドの位置を変更したりして、居室はなるべくその方の住みやすいように対応している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋がわからない方も居られるので、名前を大きく書いて貼っている。また、トイレも「便所」と別途表示している。		